

平成24年5月28日

IBC岩手放送 震災関連テレビ番組 第38回 放送文化基金賞本賞・映像賞 受賞

～ドキュメンタリー番組「幾歳経るとも要心あれ」～

東日本大震災後にIBC岩手放送が放送したテレビドキュメンタリー番組「幾歳経るとも要心あれ」が、第38回放送文化基金賞番組部門テレビドキュメンタリー番組の最高賞となる「本賞」に選ばれました。

放送文化基金賞は視聴者に感銘を与えた優れた番組を表彰するもので、公益財団法人放送文化基金が主宰。今回は平成23年度中に放送されたドキュメンタリー番組で応募があった約90作品の中から、IBC制作の番組が受賞することになりました。

またこのドキュメンタリー番組の核となる、釜石への津波襲来の映像、その直後の被害の様子などを撮影・リポートした、IBC東部支社 木下義則カメラマンが「映像賞」を受賞しました。

～ 受賞作品 ～



放送文化基金賞 番組部門 テレビドキュメンタリー番組【放送文化基金賞本賞】
「幾歳経るとも要心あれ～2011.3.11 東日本大震災」



■受賞理由

釜石在住のカメラマンが津波にのまれ消えていく街を過酷な状況に耐えながらただただ誠実に写し取った。これが自分達の住む故郷の姿だという作り手の感情と意識が伝わる。



放送文化基金賞 番組部門 個別分野【映像賞】
木下 義則 カメラマン



■受賞理由

番組「幾歳経るとも要心あれ」の撮影・リポートに対して。映像にも報告にも被災者や被災地に深いかわりを抱いていることが染み出ている。

*放送文化基金賞の表彰は6月22日(金)東京・紀尾井町の千代田放送会館で行われます。

*この件に関するお問い合わせ先：IBC岩手放送テレビ編成部 相原 019(623)3143